



# 学校だより 青い鳥

平成28年度2月号  
さいたま市立上落合小学校  
平成29年2月1日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381  
http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/ E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



## 生活家電進化

校長 藤澤 太郎

温かい冬だと思って油断していたら、極寒の朝が訪れ、思わず体が縮こまる日々となりました。対して子どもは大変元気で、朝休み・20分休み・昼休みと、校庭で歓声をあげています。元気だな、いいな、と思いつつその雄姿を見守ります。3学期は子どもたちにはとても分かりやすい学期です。ゴールのイメージをつかみやすいのだと思います。卒業式、修了式という見方は大人の考えで、その時期（3月のおわり）には、この一年の生活や活動を思い出しては、次の学年や学校に期待を膨らませるその姿がとてもいいですね。

さて、正月が過ぎ無精がたたって、家に埃が立ってきたので掃除をしていたところ、掃除機の調子が今一つです。何だか暴走気味で、対象の床なり絨毯なりに反応せず、最強モードになってしまいます。絨毯は巻き込むわバッテリーが減るわで、結局部屋の半分で「ハイ充電！」となってしまいました。原因は掃除機ヘッドのセンサー部分に、何者かの毛が巻き付いているからでした。こうなると、ヘッドの先端をまた別の掃除機で吸ったりなんかして、掃除のための掃除みたいなことで、とても変な気分になりました。（何者か＝犬）生活家電の不具合については、年々不満に感じるところがあります。壊れそうになった時に取扱い説明書を見てみると、いつも書いてあります。「〇回に一回の割合で〇のメンテナンスをお願いします。〇の故障の原因になります。」ってことは、その機械を開発した人は、あらかじめトラブルを予測していたということですね。そしてその時にいつも頭を過るのは、「生活家電：日本人の生活スタイル？クセ？万人うけ？使った人でそうなるの？」その次に「もうかなり使ったもんな～これ…」ということです。

このことをプログラミング的思考で考えてみると、家電には大なり小なりICのチップが内蔵されていて、運転の制御などを担当しているということで、つまりこれは、「AI」のことを理解していないとこれからの時代は大変だな～という思いに至りました。AIと言うと、同じ名前の映画や「アイロボット」を連想します。最近では、結構なスピードで進化をしているとのこと。また、機械・人工知能の発達により、10年後は一定の仕事が機械・人工知能にとって代わり、何百万人の雇用がなくなるとか？そう言えば、スーパーに買い物に行くと、レジの無人化（セルフ会計）が進んでいますね。（他にも、作曲やデザイン、車の自動運転等様々な実用化の様子。）

AIのことは一昨年にちょっとしたニュースになりました。いわゆる「シンギュラリティ＝特異点＝人工知能が人類の能力を超える日」については、ホーキング博士が警告している通り、そう遠くない未来に起こるとか。まるで「ターミネーター」の世界ですね。ある研究者は、それを阻止するために、人工知能の自己学習である、「ディープラーニングを調整してしまえばよい。」と言ってみたり、別の学者は「いや、もう遅い！」と言いながら憂いたり。この議論を見た限りでは、「ウー、当分ないのではないか!？」という感想をもちました。

身の回りには、家電に限らず人工知能（弱いAI?）をもった製品がそろそろ出始めてきています。子どもたちは、人工知能との進化と一緒にこの時代を過ごしてきていますので、是非人工知能との上手な付き合い方を会得してほしいと思っています。これらの扱いについては、「AIもディープラーニングも目的ではなく手段」と考えられるように、また、「人工知能やロボットのもつ便利さと危うさを知ること」が大切と考えています。

少しずつ日が伸びてきているようです。あたたかい春を待ちながら、じっくりと2月を過ごしていきましょう。今月もよろしくお願いたします。

## 学校教育目標

あかるく なかよく たくましく